



## 予定表連動の作成

次の各項を参照してください。

- [予定表連動について \(P.35-1\)](#)
- [Exchange 2007 との予定表連動の作成 \(P.35-2\)](#)
- [Exchange 2003 との予定表連動の作成 \(P.35-12\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動の作成 \(P.35-23\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動の作成 \(P.35-31\)](#)

### 予定表連動について

サポートされている予定表アプリケーション (Exchange 2007、Exchange 2003、Cisco Unified MeetingPlace、または Cisco Unified MeetingPlace Express) と連動する場合、Cisco Unity Connection では、ユーザが電話で次のことを行えます。

- 会議の予定のリストを聞く (Outlook 会議のみ)。
- 進行中の会議に参加する (MeetingPlace 会議および MeetingPlace Express 会議のみ)。
- 会議の参加者のリストを聞く。
- 会議の主催者にメッセージを送信する。
- 会議の参加者にメッセージを送信する。
- 会議への招待を受け入れるか、または拒否する (Outlook 会議のみ)。
- 即時会議を設定する (MeetingPlace 会議および MeetingPlace Express 会議のみ)。
- 会議をキャンセルする (会議の主催者のみ)。

Exchange 2007 または Exchange 2003 と連動する場合、Connection では、ユーザが Cisco Unity Assistant Web ツールを使用して Exchange 連絡先をインポートすることもできます。この連絡先情報は、その後、ユーザが Cisco Unity パーソナル着信転送ルール Web ツールで作成するルールに使用したり、ユーザがボイス コマンドで通話を発信するときに使用したりすることができます。

## Exchange 2007 との予定表連動の作成

Exchange 2007 がインストールされている場合は、Cisco Unity Connection を Exchange 2007 と連動させることで、ユーザが次のことを行えるようになります。

- 電話で会議の予定を確認する。
- Exchange 連絡先をインポートする。この連絡先情報は、ユーザがパーソナル着信転送ルール Web ツールで作成するルールに使用したり、ユーザがボイス コマンドで通話を発信するときに使用したりすることができます。

### Exchange 2007 との予定表連動を作成するためのタスク リスト

1. システム要件を参照して、Exchange 2007 および Cisco Unity Connection サーバのすべての要件が満たされていることを確認します。P.35-3 の「Exchange 2007 との予定表連動の要件」を参照してください。
2. Exchange 2007 を設定します。P.35-3 の「予定表連動のための Exchange 2007 の設定」を参照してください。
3. Connection を設定します。P.35-6 の「Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」を参照してください。
4. (パーソナル着信転送ルールを有効にする場合のみ) ユーザまたはテンプレートが、パーソナル着信転送ルール機能を使用できるサービス クラスに割り当てられていることを確認します。
5. Connection ユーザを設定します。P.35-7 の「Exchange 2007 との予定表連動のためのユーザの設定」を参照してください。
6. 予定表連動をテストします。P.35-8 の「Exchange 2007 との予定表連動のテスト」を参照してください。
7. Connection 予定表の使用方法をユーザに通知する場合は、次の参照用のドキュメントをユーザに示します。
  - 会議のリストの再生、会議への参加、および会議のスケジュール設定については、『Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザガイド (Release 7.x)』の「Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html) から入手可能です。
  - Exchange 連絡先のインポートについては、『Cisco Unity Connection Assistant Web ツール ユーザガイド (Release 7.x)』の「個人連絡先の管理」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html) から入手可能です。
  - パーソナル着信転送ルールの使用方法については、『Cisco Unity Connection パーソナル着信転送ルール Web ツール ユーザガイド (Release 7.x)』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/pctr/7xcucugpctrx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/pctr/7xcucugpctrx.html) から入手可能です。



(注)

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定およびユーザ設定を変更できます。P.35-9 の「Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更」および P.35-10 の「Exchange 2007 との予定表連動のためのユーザ設定の変更」を参照してください。

## Exchange 2007 との予定表連動の要件

Exchange 2007 との予定表連動の要件は、次のとおりです。

- 製品マニュアルに従って、Exchange 2007 がインストールされている。
- 『Cisco Unity Connection インストールガイド Release 7.x』の説明に従って、Cisco Unity Connection がインストールされている。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html) から入手可能です。

## 予定表連動のための Exchange 2007 の設定

次の該当する手順を実行します。

- SSL を使用せずに Exchange 2007 サーバにアクセスする場合は、P.35-3 の手順「予定表連動のために Exchange 2007 への基本的なアクセスを設定する (SSL を使用しない)」を実行します。
- SSL を使用して Exchange 2007 サーバに安全にアクセスする場合は、P.35-4 の手順「予定表連動のために Exchange 2007 への安全なアクセスを設定する (SSL を使用する)」を実行します。

### 予定表連動のために Exchange 2007 への基本的なアクセスを設定する (SSL を使用しない)

- 
- ステップ 1** Exchange サーバで、Exchange 管理コンソールを開きます。
  - ステップ 2** [Microsoft Exchange] > [受信者の構成] > [メールボックス] に移動します。
  - ステップ 3** 予定表連動のために有効にするメールボックスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
  - ステップ 4** [プロパティ] ダイアログボックスで、[メールボックスの機能] タブをクリックします。
  - ステップ 5** [Outlook Web Access] をクリックし、[有効にする] アイコンをクリックします。
  - ステップ 6** [OK] をクリックします。
  - ステップ 7** Exchange 管理コンソールで、[Microsoft Exchange] > [サーバーの構成] > [クライアント アクセス] に移動します。
  - ステップ 8** 中下段にあるペインで、[Outlook Web Access] タブをクリックします。
  - ステップ 9** [OWA] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
  - ステップ 10** [プロパティ] ダイアログボックスで、[認証] タブをクリックします。
  - ステップ 11** [1 つまたは複数の標準認証方法を使用する] をクリックします。
  - ステップ 12** 次の 1 つまたは複数のオプションのチェックボックスをオンにします。
    - [基本]
    - [ダイジェスト]
    - [統合 Windows 認証]
  - ステップ 13** [OK] をクリックします。

**ステップ 14** IIS マネージャ アプリケーションを開きます。

**ステップ 15** [IIS] > [<サーバ名>] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

**ステップ 16** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 17** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 18** [認証とアクセス制御] で、[編集] をクリックします。

**ステップ 19** 有効な認証方式が、[ステップ 12](#) で有効にした認証方式と一致することを確認します。

**ステップ 20** [OK] をクリックします。

**ステップ 21** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

**ステップ 22** Exchange 管理シェルを開きます。

**ステップ 23** Exchange 管理シェルで、次のコマンドを入力します。

```
iisbreset /noforce
```

**ステップ 24** Enter キーを押します。

---

#### 予定表連動のために Exchange 2007 への安全なアクセスを設定する (SSL を使用する)



**(注)** すでに SSL による安全な IMAP を設定済みで、IMAP と IIS の両方の証明書を有効にしている場合は、次の手順をスキップして、[P.35-6 の「Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」](#)に進むことができます。

---

**ステップ 1** Exchange Server サーバで、Exchange 管理シェル アプリケーションを開きます。

**ステップ 2** 次のコマンドを入力します。<Exchange サーバ> は Exchange サーバの IP アドレスまたはホスト名で、<フレンドリ名> は Exchange サーバに対して選択したフレンドリ名です。

- `new-exchangecertificate-generaterequest -domainname <Exchange サーバ> -friendlyname <フレンドリ名> -path c:\csr.txt`



**注意** Exchange サーバのドメイン名は、IP アドレスまたは完全修飾 DNS 名 (推奨) である必要があります。これにより、Connection サーバは Exchange サーバに対して正常に ping を実行できます。IP アドレスまたは完全修飾 DNS 名でない場合、予定表連動が正常に機能しない可能性があります。

---

**ステップ 3** Enter キーを押します。

ルート ディレクトリに Csr.txt という名前の Certificate Signing Request (CSR; 証明書署名要求) ファイルが作成されます。

- ステップ 4** この CSR ファイルを Certification Authority (CA; 認証局) に送信します。認証局によって新しい証明書が生成され、返送されます。



(注) CA のパブリック ルート証明書またはパブリック ルート証明書チェーンのコピーを保持している必要があります。この証明書は、Exchange 2007 サーバを信頼するように Connection を設定するために必要です。

- ステップ 5** 次のコマンドを入力します。 <パス> は、CA が新しいサーバ証明書を保存するディレクトリの場所です。

```
import-exchangecertificate -path <パス>
```

- ステップ 6** Enter キーを押します。

- ステップ 7** 次のコマンドを入力します。

```
dir cert:\localmachine\my | fl
```

- ステップ 8** Enter キーを押します。

- ステップ 9** 「フィンガープリント (thumbprint)」プロパティを強調表示し、Ctrl-C を押して、そのプロパティをクリップボードにコピーします。

- ステップ 10** IMAP を使用して外部電子メールサーバからの電子メールにアクセスするように Connection を設定し、さらに Exchange 2007 からの予定表データを使用するようにも設定する場合は、次のコマンドを入力します。 <フィンガープリント> は、[ステップ 9](#) でコピーした「フィンガープリント (thumbprint)」です。

```
enable-exchangecertificate -thumbprint <フィンガープリント> -services "IIS,IMAP"
```

IMAP を使用するように Connection を設定せずに、Exchange 2007 からの予定表データを使用するように設定する場合は、次のコマンドを入力します。 <フィンガープリント> は、[ステップ 9](#) でコピーした「フィンガープリント (thumbprint)」です。

```
enable-exchangecertificate -thumbprint <フィンガープリント> -services "IIS"
```

- ステップ 11** Enter キーを押します。

- ステップ 12** データをクリア テキストとして送信する場合は、この手順の残りのステップをスキップし、[P.35-6 の「Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」](#)に進みます。クリア テキストとして送信しない場合は、IIS マネージャ アプリケーションを開きます。

- ステップ 13** [IIS] > [<サーバ名>] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

- ステップ 14** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

- ステップ 15** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

- ステップ 16** [セキュリティ保護された通信] で、[編集] をクリックします。

- ステップ 17** [セキュリティ保護されたチャネルを要求] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 18** [OK] をクリックします。

**ステップ 19** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

---

## Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定

次の手順を実行します。

### Exchange 2007 との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する

---

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。

**ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

**ステップ 3** [外部サービスの新規作成 (New External Service)] ページの [タイプ (Type)] リストで、[Exchange 2007 External Service Template] をクリックします。

**ステップ 4** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにして、予定表連動を有効にします。

**ステップ 5** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。

**ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、Exchange 2007 サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 7** [認証モード (Authentication Mode)] フィールドで、Exchange サーバによって使用される認証モードに一致する適切な設定をクリックします。

**ステップ 8** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Exchange 2007 サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Exchange 2007 サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 9** [SSL] を選択した場合、Connection が Exchange 2007 サーバ証明書を確認するようにするには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 10** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** [テスト] をクリックします。Cisco Unity Connection の設定が正常に確認されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

確認に失敗した場合は、Exchange 2007 と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

**ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。

## Exchange 2007 との予定表連動のためのユーザの設定

次の手順を実行します。



(注) Exchange 2007 は、設定する Connection ユーザごとにユーザを必要とします。

### Exchange 2007 との予定表連動のためにユーザを設定する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ユーザ (Users)] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。
- ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。
- ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 5** [外部サービスのアカウントの新規作成 (New External Service Accounts)] ページの [外部サービス (External Service)] フィールドで、[P.35-6 の手順「Exchange 2007 との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する」](#) で入力した表示名をクリックします。
- ステップ 6** [電子メール (Email Address)] フィールドに、Exchange 2007 におけるユーザの電子メール アドレスを入力します。
- ステップ 7** [ログインタイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。
- [接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、ユーザの Windows ドメインエイリアスが Connection ユーザエイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザエイリアスを使用してユーザをログインさせます。
  - [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] : (推奨) ユーザの Windows ドメインエイリアスを入力します ([ユーザー ID] 設定が Connection ユーザエイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。
- ステップ 8** (ステップ 7 で [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Exchange 2007 の [ユーザー ID] 設定を入力します。

**ステップ 9** [パスワード (Password)] フィールドに、ユーザの Windows ドメイン パスワードを入力します (パスワードがわかっている場合)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。



**(注)** [パスワード (Password)] フィールドを空白にした場合、ユーザは Cisco Personal Communications Assistant にログインして、[外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページでパスワードを入力する必要があります。詳細については、『Cisco Unity Connection Assistant Web ツール ユーザ ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection パスワードの変更」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html) から入手可能です。

**ステップ 10** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。



**(注)** ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

**ステップ 11** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 12** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2007、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

**ステップ 13** 残りすべてのユーザについて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 12](#) を繰り返します。

## Exchange 2007 との予定表連動のテスト

次の手順を実行します。

### Exchange 2007 との予定表連動のための設定をテストする

**ステップ 1** Outlook にログインします。

**ステップ 2** [検索] メニューで、[予定表] をクリックします。

**ステップ 3** [ファイル] メニューで、[新規作成] > [会議出席依頼] をクリックします。

**ステップ 4** 必須フィールドに値を入力して、新しい会議を現在の時刻にスケジュールし、Cisco Unity Connection 上にアカウントを持つユーザを招待します。

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

**ステップ 6** ステップ 4 で Outlook 会議に招待したユーザの Cisco Unity Connection メールボックスにログインします。

**ステップ 7** そのユーザアカウントがスピーチ アクセス用に設定されている場合は、**Play Meetings** と言います。

そのユーザアカウントがスピーチ アクセス用に設定されていない場合は、**6** を押し、プロンプトに従って会議のリストを再生します。

Connection によって、Exchange 2007 会議に関する情報が再生されます。

## Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Exchange 2007 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定を変更する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。

**ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、Connection を Exchange 2007 と連動させたときに作成した外部サービスの名前をクリックします。

**ステップ 3** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにして、外部サービスを有効にします。

このチェックボックスがオフになっている場合、Exchange 2007 との連動は無効です。

**ステップ 4** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。

**ステップ 5** [サーバ (Server)] フィールドに、Exchange 2007 サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 6** [認証モード (Authentication Mode)] フィールドで、Exchange サーバによって使用される認証モードに一致する適切な設定をクリックします。

**ステップ 7** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Exchange 2007 サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Exchange 2007 サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 8** [SSL] を選択した場合、Connection が Exchange 2007 サーバ証明書を確認するようにするには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 9** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 11** Exchange 2007 との連動を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2007 と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

## Exchange 2007 との予定表連動のためのユーザ設定の変更

予定表連動の作成後、ユーザ設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Exchange 2007 との予定表連動のためのユーザ設定を変更する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。

**ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。

**ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページの [表示名 (Display Name)] カラムで、Exchange 2007 サービスの表示名をクリックします。

**ステップ 5** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [電子メール (Email Address)] フィールドに、Exchange 2007 におけるユーザの電子メールアドレスを入力します。

**ステップ 6** [ログインタイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。

- [接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、ユーザの Windows ドメインエイリアスが Connection ユーザエイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザエイリアスを使用してユーザをログインさせます。
- [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] : (推奨) ユーザの Windows ドメインエイリアスを入力します ([ユーザー ID] 設定が Connection ユーザエイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。

**ステップ 7** (ステップ 6 で [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Exchange 2007 の [ユーザー ID] 設定を入力します。

**ステップ 8** [パスワード (Password)] フィールドに、ユーザの Windows ドメインパスワードを入力します (パスワードがわかっている場合)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。



(注) [パスワード (Password)] フィールドを空白にした場合、ユーザは Cisco Personal Communications Assistant にログインして、[外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページでパスワードを入力する必要があります。詳細については、『Cisco Unity Connection Assistant Web ツール ユーザ ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection パスワードの変更」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html) から入手可能です。

**ステップ 9** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。



(注) ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

**ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 11** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2007、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

## Exchange 2003 との予定表連動の作成

Exchange 2003 がインストールされている場合は、Cisco Unity Connection を Exchange 2003 と連動させることで、ユーザが次のことを行えるようになります。

- 電話または Cisco Personal Communications Assistant (PCA) を使用して、会議の予定を確認する。
- Exchange 連絡先をインポートする。この連絡先情報は、ユーザがパーソナル着信転送ルール Web ツールで作成するルールに使用したり、ユーザがボイス コマンドで通話を発信するときに使用したりすることができます。

### Exchange 2003 との予定表連動を作成するためのタスク リスト

1. システム要件を参照して、Exchange 2003 および Cisco Unity Connection サーバのすべての要件が満たされていることを確認します。P.35-13 の「Exchange 2003 との予定表連動の要件」を参照してください。
2. Exchange 2003 を設定します。P.35-13 の「予定表連動のための Exchange 2003 の設定」を参照してください。
3. Connection を設定します。P.35-17 の「Exchange 2003 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」を参照してください。
4. (パーソナル着信転送ルールを有効にする場合のみ) ユーザまたはテンプレートが、パーソナル着信転送ルール機能を使用できるサービス クラスに関連付けられていることを確認します。
5. Connection ユーザを設定します。P.35-18 の「Exchange 2003 との予定表連動のためのユーザの設定」を参照してください。
6. 予定表連動をテストします。P.35-19 の「Exchange 2003 との予定表連動のテスト」を参照してください。
7. Connection 予定表の使用方法をユーザに通知する場合は、次の参照用のドキュメントをユーザに示します。
  - 会議のリストの再生、会議への参加、および会議のスケジュール設定については、『Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザガイド (Release 7.x)』の「Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html) から入手可能です。
  - Exchange 連絡先のインポートについては、『Cisco Unity Connection Assistant Web ツール ユーザガイド (Release 7.x)』の「個人連絡先の管理」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/assistant/7xcucugasstx.html) から入手可能です。
  - パーソナル着信転送ルールの使用方法については、『Cisco Unity Connection パーソナル着信転送ルール Web ツール ユーザガイド (Release 7.x)』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/pctr/7xcucugpctrx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/pctr/7xcucugpctrx.html) から入手可能です。



(注)

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定およびユーザ設定を変更できます。P.35-20 の「Exchange 2003 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更」および P.35-21 の「Exchange 2003 との予定表連動のためのユーザ設定の変更」を参照してください。

## Exchange 2003 との予定表連動の要件

Exchange 2003 との予定表連動の要件は、次のとおりです。

- 製品マニュアルに従って、Exchange 2003 がインストールされている。
- 『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の説明に従って、Cisco Unity Connection がインストールされている。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html) から入手可能です。

## 予定表連動のための Exchange 2003 の設定

次の該当する手順を実行します。

### Exchange 2003 との予定表連動のための特権サービス アカウントを作成する

**ステップ 1** ドメイン コントローラで、[Active Directory ユーザーとコンピュータ] を開きます。

**ステップ 2** [Users] を右クリックし、[新規作成] > [ユーザー] をクリックします。

**ステップ 3** エイリアス **cucsvc** を使用して、ドメイン ユーザ アカウントを作成します。



(注) このユーザのメールボックスを作成する必要はありません。

**ステップ 4** Exchange サーバで、[Microsoft Exchange] > [システム マネージャ] に移動します。

**ステップ 5** [サーバー] で、サーバ名を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 6** [プロパティ] ダイアログボックスで、[セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 7** [追加] をクリックし、このストアに対する権限を持つアカウントのリストに **cucsvc** (ステップ 3 で作成したドメインアカウントのエイリアス) を追加します。

**ステップ 8** [名前の確認] をクリックします。

**ステップ 9** [OK] をクリックします。

**ステップ 10** リストで、**cucsvc** (ステップ 3 で作成したドメインアカウントのエイリアス) をクリックします。

**ステップ 11** このドメイン アカウント エイリアスに [Receive As]、[Send As]、および [Administer Information Store] の各権限を設定します。他のすべての権限を拒否します。

**ステップ 12** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

SSL を使用せずに Exchange 2003 サーバにアクセスする場合は、P.35-14 の手順「予定表連動のために Exchange 2003 への基本的なアクセスを設定する (SSL を使用しない)」を実行します。

SSL を使用して Exchange 2003 サーバに安全にアクセスする場合は、P.35-15 の手順「予定表連動のために Exchange 2003 への安全なアクセスを設定する (SSL を使用する)」を実行します。

#### 予定表連動のために Exchange 2003 への基本的なアクセスを設定する (SSL を使用しない)

- ステップ 1 ドメインコントローラで、[Active Directory ユーザーとコンピュータ] に移動します。
- ステップ 2 [Users] で、Connection のアクセス先となる予定表を持つユーザアカウントをすべて選択します。
- ステップ 3 強調表示されたユーザを右クリックし、[Exchange タスク] をクリックします。
- ステップ 4 [Exchange タスク] ダイアログボックスで、[Exchange の機能の構成] をクリックします。
- ステップ 5 [プロトコル] で、[Outlook Web Access] をクリックします。
- ステップ 6 [有効にする] アイコンをクリックします。
- ステップ 7 [次へ] をクリックします。
- ステップ 8 [完了] をクリックします。
- ステップ 9 Exchange サーバで、Exchange システム マネージャ アプリケーションを開きます。
- ステップ 10 [サーバー] > [<サーバ名>] > [プロトコル] > [HTTP] > [Exchange 仮想サーバー] に移動します。
- ステップ 11 [設定] タブをクリックします。
- ステップ 12 [フォーム ベース認証を有効にする] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
- ステップ 13 [OK] をクリックします。
- ステップ 14 [サーバー] > [<サーバ名>] > [プロトコル] > [HTTP] > [Exchange 仮想サーバー] > [Exchange] に移動します。
- ステップ 15 [Exchange] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ステップ 16 [Exchange 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログボックスで、[アクセス] タブをクリックします。
- ステップ 17 次の各チェックボックスがオンになっていることを確認します。
  - [読み取り]
  - [書き込み]
  - [ディレクトリの参照]
- ステップ 18 [認証] をクリックします。
- ステップ 19 次の 1 つまたは複数のオプションが有効になっていることを確認します。
  - [基本]
  - [ダイジェスト]
  - [統合 Windows 認証]

**ステップ 20** [OK] をクリックします。

**ステップ 21** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

**ステップ 22** IIS マネージャ アプリケーションを開きます。

**ステップ 23** [IIS] > [<サーバ名>] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

**ステップ 24** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 25** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 26** [認証とアクセス制御] で、[編集] をクリックします。

**ステップ 27** 有効な認証方式が、[ステップ 19](#) で有効にした認証方式と一致することを確認します。

**ステップ 28** [OK] をクリックします。

**ステップ 29** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

---

#### 予定表連動のために Exchange 2003 への安全なアクセスを設定する (SSL を使用する)

---

**ステップ 1** Exchange サーバで、IIS マネージャ アプリケーションを開きます。

**ステップ 2** [IIS] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

**ステップ 3** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 4** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 5** [セキュリティ保護された通信] の [サーバ証明書] をクリックします。

**ステップ 6** [次へ] をクリックします。

**ステップ 7** [証明書の新規作成] をクリックします。



(注) このオプションを使用できない場合は、既存の証明書を削除して、このステップを再度実行する必要があります。

---

**ステップ 8** [証明書の要求を作成して後で送信する] をクリックします。

**ステップ 9** ウィザードのプロンプトに従って、組織の適切な情報を入力します。



**注意** Exchange サーバ証明書の「一般名 (Common Name)」は、Exchange サーバの IP アドレスまたは完全修飾 DNS 名 (推奨) である必要があります。IP アドレスまたは完全修飾 DNS 名でない場合、予定表連動が正常に機能しない可能性があります。

---

**ステップ 10** 証明書署名要求 (CSR) をファイルとして保存します。

**ステップ 11** この CSR ファイルを Certification Authority (CA; 認証局) に送信します。認証局によって新しい証明書が生成され、返送されます。



(注) CA のパブリック ルート証明書またはパブリック ルート証明書チェーンのコピーを保持している必要があります。この証明書は、Exchange 2003 サーバを信頼するように Connection を設定するために必要です。

**ステップ 12** IIS マネージャ アプリケーションに戻ります。

**ステップ 13** [IIS] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

**ステップ 14** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 15** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 16** [セキュリティ保護された通信] の [サーバ証明書] をクリックします。

**ステップ 17** [次へ] をクリックします。

**ステップ 18** [保留中の要求を処理し、証明書をインストールする] をクリックし、[次へ] をクリックします。

**ステップ 19** ローカル ファイル システムを参照し、CA から送信された新しい証明書をクリックします。

**ステップ 20** [次へ] をクリックします。

**ステップ 21** 証明書情報が有効であることを確認し、[次へ] をクリックします。

**ステップ 22** [完了] をクリックします。

**ステップ 23** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

**ステップ 24** IIS マネージャ アプリケーションに戻ります。

**ステップ 25** [IIS] > [<サーバ名>] > [Web サイト] > [既定の Web サイト] に移動します。

**ステップ 26** [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

**ステップ 27** [プロパティ] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。

**ステップ 28** [セキュリティ保護された通信] で、[編集] をクリックします。

**ステップ 29** [セキュリティ保護されたチャネルを要求] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 30** [OK] をクリックします。

**ステップ 31** [プロパティ] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

## Exchange 2003 との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定

次の手順を実行します。

### Exchange 2003 との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。

**ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

**ステップ 3** [外部サービスの新規作成 (New External Service)] ページの [タイプ (Type)] リストで、[Exchange 2003 External Service Template] をクリックします。

**ステップ 4** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにして、外部サービスを有効にします。

このチェックボックスがオフになっている場合、Exchange 2003 との連動は無効です。

**ステップ 5** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。

**ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、Exchange 2003 サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 7** [認証モード (Authentication Mode)] フィールドで、Exchange サーバによって使用される認証モードに一致する適切な設定をクリックします。

**ステップ 8** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Exchange 2003 サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Exchange 2003 サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 9** [SSL] を選択した場合、Connection が Exchange 2003 サーバ証明書を確認するようにするには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 10** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Exchange 2003 サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、Exchange 2003 で設定されている特権サービス アカウントのユーザ ID と一致している必要があります。

**ステップ 11** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Exchange 2003 サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントのパスワードを入力します。

この設定は、Exchange 2003 で設定されている特権サービス アカウントのユーザ パスワードと一致している必要があります。

**ステップ 12** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 14** Exchange 2003 との連動を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2003 と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

## Exchange 2003 との予定表連動のためのユーザの設定

次の手順を実行します。



(注) Exchange 2003 は、設定する Connection ユーザごとにユーザを必要とします。

### Exchange 2003 との予定表連動のためにユーザを設定する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。

**ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。

**ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

**ステップ 5** [外部サービスのアカウントの新規作成 (New External Service Accounts)] ページの [外部サービス (External Service)] フィールドで、[P.35-17 の手順「Exchange 2003 との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する」](#) で入力した表示名をクリックします。

**ステップ 6** [電子メール (Email Address)] フィールドに、Exchange 2003 におけるユーザのプライマリ SMTP アドレスを入力します。

**ステップ 7** [ログインタイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。

- [接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定が Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。
- [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] : Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定を入力します ( [ユーザー ID] 設定が Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。

**ステップ 8** (ステップ 7 で [次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定を入力します。

**ステップ 9** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。



**(注)** ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

**ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 11** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2003、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

**ステップ 12** 残りすべてのユーザについて、ステップ 2 ～ステップ 11 を繰り返します。

## Exchange 2003 との予定表連動のテスト

次の手順を実行します。

### Exchange 2003 との予定表連動をテストする

**ステップ 1** Outlook にログインします。

**ステップ 2** [検索] メニューで、[予定表] をクリックします。

**ステップ 3** [ファイル] メニューで、[新規作成] > [会議出席依頼] をクリックします。

**ステップ 4** 必須フィールドに値を入力して、新しい会議を現在の時刻にスケジュールし、Cisco Unity Connection 上にアカウントを持つユーザを招待します。

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

**ステップ 6** ステップ 4 で Outlook 会議に招待したユーザの Connection メールボックスにログインします。

**ステップ 7** そのユーザアカウントがスピーチ アクセス用に設定されている場合は、**Play Meetings** と言います。

そのユーザアカウントがスピーチ アクセス用に設定されていない場合は、**6** を押し、プロンプトに従って会議のリストを再生します。

Connection によって、Exchange 2003 会議に関する情報が再生されます。

## Exchange 2003 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Exchange 2003 との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定を変更する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。

**ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、Connection を Exchange 2003 と連動させたときに作成した外部サービスの名前をクリックします。

**ステップ 3** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにして、外部サービスを有効にします。

このチェックボックスがオフになっている場合、Exchange 2003 との連動は無効です。

**ステップ 4** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。

**ステップ 5** [サーバ (Server)] フィールドに、Exchange 2003 サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 6** [認証モード (Authentication Mode)] フィールドで、Exchange サーバによって使用される認証モードに一致する適切な設定をクリックします。

**ステップ 7** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Exchange 2003 サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Exchange 2003 サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 8** [SSL] を選択した場合、Connection が Exchange 2003 サーバ証明書を確認するには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 9** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Exchange 2003 サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、Exchange 2003 で設定されている特権サービス アカウントのユーザ ID と一致している必要があります。

**ステップ 10** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Exchange 2003 サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントのパスワードを入力します。

この設定は、Exchange 2003 で設定されている特権サービス アカウントのユーザ パスワードと一致している必要があります。

**ステップ 11** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 13** Exchange 2003 との連動を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2003 と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

## Exchange 2003 との予定表連動のためのユーザ設定の変更

予定表連動の作成後、ユーザ設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Exchange 2003 との予定表連動のためのユーザ設定を変更する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。

**ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。

**ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページの [表示名 (Display Name)] カラムで、Exchange 2003 サービスの表示名をクリックします。

**ステップ 5** [電子メール (Email Address)] フィールドに、Exchange 2003 におけるユーザのプライマリ SMTP アドレスを入力します。

**ステップ 6** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [ログイン タイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。

- [接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定が Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。
- [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] : Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定を入力します ( [ユーザー ID] 設定が Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。

**ステップ 7** (ステップ 6 で [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Exchange 2003 の [ユーザー ID] 設定を入力します。

**ステップ 8** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスをオンにします。



(注) ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

**ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 10** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Exchange 2003、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

---

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動の作成

Cisco Unified MeetingPlace がインストールされている場合は、Cisco Unity Connection を Cisco Unified MeetingPlace と連動させることで、ユーザが電話で、会議の予定を確認し、開催中の会議に参加できるようになります。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動を作成するためのタスク リスト

1. システム要件を参照して、Cisco Unified MeetingPlace および Cisco Unity Connection サーバのすべての要件が満たされていることを確認します。P.35-23 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動の要件」を参照してください。
2. Cisco Unified MeetingPlace を設定します。P.35-24 の「予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定」を参照してください。
3. Connection を設定します。P.35-25 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」を参照してください。
4. Connection ユーザを設定します。P.35-26 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためのユーザの設定」を参照してください。
5. 予定表連動をテストします。P.35-28 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のテスト」を参照してください。
6. 会議のリストの再生、会議への参加、および会議のスケジュール設定を行う方法をユーザに通知するには、『Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザ ガイド (Release 7.x)』の「Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド」の章を参照してください。このドキュメントは、  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html) から入手可能です。



(注)

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定およびユーザ設定を変更できます。P.35-28 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更」および P.35-30 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためのユーザ設定の変更」を参照してください。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動の要件

Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動の要件は、次のとおりです。

- Cisco Unified MeetingPlace のドキュメントに従って、Cisco Unified MeetingPlace 7.0 以降がインストールされている。このドキュメントは、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/tsd_products_support_series_home.html) から入手可能です。
- 『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の説明に従って、Cisco Unity Connection がインストールされている。このドキュメントは、  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html) から入手可能です。

## 予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定

次の手順を実行します。

### 予定表連動のために Cisco Unified MeetingPlace を設定する

- ステップ 1** 管理者として Cisco Unified MeetingPlace 管理サーバにログインします。
- ステップ 2** [User Configuration] > [User Profiles] をクリックします。
- ステップ 3** [Add New] をクリックします。
- ステップ 4** 必須フィールドに次の値を入力して、特権サービス アカウントを作成します。

[First Name]	このフィールドは、空白のままにします。
[Last Name]	<b>Cisco Unity Connection</b> と入力します。
[User ID]	<b>cucsvc</b> と入力するか、または必要な別のユーザ ID を入力します。
[User Password]	適切なパスワードを入力します。
[Profile Number]	適切なプロファイル番号を入力します。
[Profile Password]	適切なプロファイルパスワードを入力します。
[Type of User]	[ <b>System Administrator</b> ] をクリックします。



(注) [User ID]、[User Password]、[Profile Number]、および [Profile Password] の各フィールドに入力する値は、P.35-25 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」で使用します。

- ステップ 5** [Save] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco Unified MeetingPlace からログオフします。



**注意** Cisco Unified MeetingPlace からログオフしないと、P.35-24 の手順「予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace 設定をテストする」でテストが失敗します。

### 予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace 設定をテストする

- ステップ 1** SSL が有効でない場合は、Web ブラウザの [アドレス] フィールドに次の URL を入力します (<サーバ> は、Cisco Unified MeetingPlace サーバの IP アドレスまたはホスト名です)。

`http://<サーバ>/webservices/services/meetingservice?wsdl`

SSL が有効である場合は、次の URL を入力します。

`https://<サーバ>/webservices/services/meetingservice?wsdl`

- ステップ 2** Enter キーを押します。

**ステップ 3** ログインするように要求された場合、[P.35-24 の手順「予定表連動のために Cisco Unified MeetingPlace を設定する」](#) で作成した特権サービス アカウントのユーザ ID とパスワードを入力します。

「XFire Services」というタイトルの Cisco Unified MeetingPlace WSDL ダウンロード ページが表示されます。

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定

次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。

**ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

**ステップ 3** [外部サービスの新規作成 (New External Service)] ページの [タイプ (Type)] リストで、[MeetingPlace 7.0 External Service Template] をクリックします。

**ステップ 4** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにして、外部サービスを有効にします。

このチェックボックスがオフになっている場合、Cisco Unified MeetingPlace との連動は無効です。

**ステップ 5** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。

**ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 7** [内線番号ダイヤル文字列を転送する (Transfer Extension Dial String)] フィールドに、電話機のユーザを Cisco Unified MeetingPlace サーバのガイダンスに転送するときに、Connection がダイヤルする必要のある数字を入力します。

**ステップ 8** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 9** [SSL] を選択した場合、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバ証明書を確認するには、[サーバ証明書を検証にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の検証が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内の

すべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 10** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、P.35-24 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定](#)」で設定した特権サービス アカウントの [User ID] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 11** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントのパスワードを入力します。

この設定は、P.35-24 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定](#)」で設定した特権サービス アカウントの [User Password] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 12** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。

- [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で会議の予定を聞くことができるようになります。
- [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。

**ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 14** Cisco Unified MeetingPlace との連動を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためのユーザの設定

次の手順を実行します。



(注) Cisco Unified MeetingPlace は、設定する Connection ユーザごとにエンドユーザを必要とします。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためにユーザを設定する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。

**ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。

- ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。[外部サービスのアカウントの新規作成 (New External Service Account)] ページが表示されます。
- ステップ 5** [外部サービス (External Service)] フィールドで、P.35-25 の「Cisco Unified MeetingPlace との予定表運動のための Cisco Unity Connection の設定」で入力した表示名をクリックします。
- ステップ 6** [ログインタイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。
- **[接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)]**: このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
  - **[サーバのゲスト アカウントを使用 (Use Server Guest Account)]**: Connection は、Connection ユーザ エイリアスおよび [User ID] 設定を使用せずに、ユーザをゲストとしてログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議に関する情報のみをユーザに提供します。
  - **[次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)]**: Cisco Unified MeetingPlace のプロファイル エイリアスを入力します (Cisco Unified MeetingPlace プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
- ステップ 7** (ステップ 6 で [次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ)[ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace の [User ID] 設定を入力します。
- ステップ 8** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。
- **[MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)]**: このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。
  - **[プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service)]**: 複数の外部サービスで [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified MeetingPlace 会議がこの Cisco Unified MeetingPlace サーバを介して設定されるようになります。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified MeetingPlace 会議が別のサーバを介して設定されるようになります。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。
- テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。
- ステップ 11** 残りすべてのユーザについて、ステップ 2 ～ステップ 10 を繰り返します。

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のテスト

次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための設定をテストする

- 
- ステップ 1** エンド ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace にログインします。
  - ステップ 2** [Schedule] をクリックします。
  - ステップ 3** 必須フィールドに値を入力して、新しい会議を現在の時刻にスケジュールし、Cisco Unity Connection 上にアカウントを持つユーザを招待します。
  - ステップ 4** **ステップ 3** で Cisco Unified MeetingPlace 会議に招待したユーザの Connection メールボックスにログインします。
  - ステップ 5** そのユーザ アカウントがスピーチ アクセス用に設定されている場合は、**Play Meetings** と言います。  
  
そのユーザ アカウントがスピーチ アクセス用に設定されていない場合は、**6** を押し、プロンプトに従って会議のリストを再生します。
  - ステップ 6** 今スケジュールした Cisco Unified MeetingPlace 会議が通知されるのが聞こえたときに、**Join** と言うか、または電話機のキーパッドで適切なキーを押して、会議に参加します。
- 

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定を変更する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。
  - ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、Connection を Cisco Unified MeetingPlace と連動させたときに作成した外部サービスの表示名をクリックします。
  - ステップ 3** 連動の [サーバタイプ (Server Type)] カラムに [MeetingPlace 7.0] と表示されていることを確認します。
  - ステップ 4** 予定表連動を有効にするには、[有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにします。予定表連動を無効にするには、[有効にする (Enabled)] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 5** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。
  - ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**ステップ 7** [内線番号ダイヤル文字列を転送する (Transfer Extension Dial String)] フィールドに、電話機の利用者を Cisco Unified MeetingPlace サーバのガイダンスに転送するときに、Connection がダイヤルする必要のある数字を入力します。

**ステップ 8** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。

- [なし (None)] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
- [SSL] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace サーバとの接続に SSL を使用します。

**ステップ 9** [SSL] を選択した場合、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバ証明書を確認するには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。

**注意**

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した認証局 (CA) のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 10** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、P.35-24 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定](#)」で設定した特権サービス アカウントの [User ID] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 11** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace サーバへのログインで使用する特権サービス アカウントのパスワードを入力します。

この設定は、P.35-24 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace の設定](#)」で設定した API ユーザの [User Password] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 12** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。

- [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で会議の予定を聞くことができますようになります。
- [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。

**ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 14** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

## Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためのユーザ設定の変更

予定表連動の作成後、ユーザ設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace との予定表連動のためのユーザ設定を変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。
- ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。
- ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページの [表示名 (Display Name)] カラムで、Cisco Unified MeetingPlace サービスの表示名をクリックします。
- ステップ 5** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [ログイン タイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。
- **[接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)]**: このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
  - **[サーバのゲスト アカウントを使用 (Use Server Guest Account)]**: Connection は、Connection ユーザ エイリアスおよび [User ID] 設定を使用せずに、ユーザをゲストとしてログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議に関する情報のみをユーザに提供します。
  - **[次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)]**: Cisco Unified MeetingPlace のプロファイル エイリアスを入力します (Cisco Unified MeetingPlace プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
- ステップ 6** (ステップ 5 で [次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ)[ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace の [User ID] 設定を入力します。
- ステップ 7** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。
- **[MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)]**: このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。
  - **[プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service)]**: 複数の外部サービスで [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified MeetingPlace 会議がこの Cisco Unified MeetingPlace サーバを介して設定されるようになります。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified MeetingPlace 会議が別のサーバを介して設定されるようになります。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動の作成

Cisco Unified MeetingPlace Express がインストールされている場合は、Cisco Unity Connection を Cisco Unified MeetingPlace Express と連動させることで、ユーザが電話または Cisco Personal Communications Assistant (PCA) を使用して、会議の予定を確認し、開催中の会議に参加できるようになります。

次のタスク リストを使用して、予定表連動を作成します。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動を作成するためのタスク リスト

1. システム要件を参照して、Cisco Unified MeetingPlace Express および Cisco Unity Connection サーバのすべての要件が満たされていることを確認します。P.35-31 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための要件」を参照してください。
2. Cisco Unified MeetingPlace Express を設定します。P.35-32 の「予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定」を参照してください。
3. Connection を設定します。P.35-33 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」を参照してください。
4. Connection ユーザを設定します。P.35-34 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためのユーザの設定」を参照してください。
5. 予定表連動をテストします。P.35-36 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のテスト」を参照してください。
6. 会議のリストの再生、会議への参加、および会議のスケジュール設定を行う方法をユーザに通知するには、『Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザ ガイド (Release 7.x)』の「Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド」の章を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user/guide/phone/7xcucugphonex.html) から入手可能です。



(注)

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定およびユーザ設定を変更できます。P.35-37 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更」および P.35-38 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためのユーザ設定の変更」を参照してください。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための要件

Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動の要件は、次のとおりです。

- Cisco Unified MeetingPlace Express のドキュメントに従って、Cisco Unified MeetingPlace Express 2.0 以降がインストールされている。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html) から入手可能です。
- 『Cisco Unity Connection インストールガイド』の説明に従って、Cisco Unity Connection がインストールされている。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html) から入手可能です。

## 予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定

次の手順を実行します。

### 予定表連動のために Cisco Unified MeetingPlace Express を設定する

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインし、**[Administration]** をクリックします。
- ステップ 2** **[User Configuration]** > **[User Profile Management]** をクリックします。
- ステップ 3** **[Add New]** をクリックします。
- ステップ 4** 必須フィールドに次の値を入力して、API ユーザを作成します。

<b>[First Name]</b>	このフィールドは、空白のままにします。
<b>[Last Name]</b>	<b>Cisco Unity Connection</b> と入力します。
<b>[User ID]</b>	<b>cucsvc</b> と入力するか、または必要な別のユーザ ID を入力します。
<b>[User Password]</b>	適切なパスワードを入力します。
<b>[Profile Number]</b>	適切なプロファイル番号を入力します。
<b>[Type of User]</b>	<b>[API User]</b> をクリックします。



**(注)** **[User ID]**、**[User Password]**、および **[Profile Number]** の各フィールドに入力する値は、[P.35-33 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」](#) で使用します。

- ステップ 5** **[保存 (Save)]** をクリックします。
- ステップ 6** Cisco Unified MeetingPlace Express からログオフします。



**注意** Cisco Unified MeetingPlace Express からログオフしないと、[P.35-32 の手順「予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express 設定をテストする」](#) でテストが失敗します。

### 予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express 設定をテストする

- ステップ 1** SSL が有効でない場合は、Web ブラウザの **[アドレス]** フィールドに次の URL を入力します (<サーバ>は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバの IP アドレスまたはホスト名です)。

**http://<サーバ>.com/webservices/services/meetingservice?wsdl**

SSL が有効である場合は、次の URL を入力します。

**https://<サーバ>.com/webservices/services/meetingservice?wsdl**

- ステップ 2** **Enter** キーを押します。

**ステップ 3** ログインするように要求された場合、P.35-32 の手順「[予定表連動のために Cisco Unified MeetingPlace Express を設定する](#)」で入力した API ユーザのユーザ ID とパスワードを入力します。

「XFire Services」というタイトルの Cisco Unified MeetingPlace Express WSDL ダウンロード ページが表示されます。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定

次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のために Cisco Unity Connection を設定する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。
- ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [外部サービスの新規作成 (New External Service)] ページの [タイプ (Type)] リストで、[MeetingPlace Express 2.0 External Service Template] をクリックします。
- ステップ 4** [有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- このチェックボックスがオフになっている場合、Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動は無効です。
- ステップ 5** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。たとえば、「Cisco Unified MeetingPlace Express calendar」と入力します。
- ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 7** [内線番号ダイヤル文字列を転送する (Transfer Extension Dial String)] フィールドに、電話機のユーザを Cisco Unified MeetingPlace Express サーバのガイダンスに転送するときに、Connection がダイヤルする必要のある数字を入力します。
- ステップ 8** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。
- [なし (None)] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
  - [SSL] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバとの接続に SSL を使用します。
- ステップ 9** [SSL] を選択した場合、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバ証明書を確認するようにするには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。

**注意**

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した CA のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 10** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバへのログインで使用する API ユーザの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、P.35-32 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定](#)」で設定した API ユーザの [User ID] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 11** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバへのログインで使用する API ユーザのパスワードを入力します。

この設定は、P.35-32 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定](#)」で設定した API ユーザの [User Password] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 12** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。

- **[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)]** : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で会議の予定を聞くことができるようになります。
- **[MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)]** : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。

**ステップ 13** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 14** Cisco Unified MeetingPlace Express との連動を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express と Cisco Unity Connection の設定を確認します。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためのユーザの設定

次の手順を実行します。

**(注)**

Cisco Unified MeetingPlace Express は、設定する Connection ユーザごとにエンド ユーザを必要とします。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためにユーザを設定する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。
- ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。
- ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。[外部サービスのアカウントの新規作成 (New External Service Accounts)] ページが表示されます。
- ステップ 5** [外部サービス (External Service)] フィールドで、P.35-33 の「Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection の設定」で入力した表示名をクリックします。
- ステップ 6** [ログインタイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。
- [接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace Express プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
  - [サーバのゲスト アカウントを使用 (Use Server Guest Account)] : Connection は、Connection ユーザ エイリアスおよび [User ID] 設定を使用せずに、ユーザをゲストとしてログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議に関する情報のみをユーザに提供します。
  - [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] : Cisco Unified MeetingPlace Express のプロファイル エイリアスを入力します (Cisco Unified MeetingPlace Express プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
- ステップ 7** (ステップ 6 で [次のユーザ ID を使用 : (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express の [User ID] 設定を入力します。
- ステップ 8** (有効な場合のみ) [ユーザ プロファイル番号 (User Profile Number)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express の [User ID] 設定を入力します。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。
- ステップ 9** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。
- [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で会議の予定を聞くことができるようになります。



**(注)** ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

- [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。
- [プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service)] : 複数の外部サービスで [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議がこの Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを介して設定されるようになります。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議が別のサーバを介して設定されるようになります。

**ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 11** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

**ステップ 12** 残りすべてのユーザについて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 11](#) を繰り返します。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のテスト

次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動をテストする

**ステップ 1** エンドユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。

**ステップ 2** [Schedule] をクリックします。

**ステップ 3** 必須フィールドに値を入力して、新しい会議を現在の時刻にスケジュールし、Cisco Unity Connection 上にアカウントを持つユーザを招待します。

**ステップ 4** [ステップ 3](#) で Cisco Unified MeetingPlace Express 会議に招待したユーザの Connection メールボックスにログインします。

**ステップ 5** そのユーザアカウントがスピーチアクセス用に設定されている場合は、**Play Meetings** と言います。

そのユーザアカウントがスピーチアクセス用に設定されていない場合は、**6** を押し、プロンプトに従って会議のリストを再生します。

**ステップ 6** 今スケジュールした Cisco Unified MeetingPlace Express 会議が通知されるのが聞こえたときに、**Join** と言うか、または電話機のキーパッドで適切なキーを押して、会議に参加します。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定の変更

予定表連動の作成後、Cisco Unity Connection 設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のための Cisco Unity Connection 設定を変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[外部サービス (External Services)] をクリックします。
- ステップ 2** [外部サービスの検索 (Search External Services)] ページで、Connection を Cisco Unified MeetingPlace Express と連動させたときに作成した外部サービスを見つけます。
- ステップ 3** 連動の [サーバタイプ (Server Type)] カラムに [MeetingPlace Express 2.x] と表示されていることを確認します。
- ステップ 4** Connection を Cisco Unified MeetingPlace Express と連動させたときに作成した外部サービスの名前をクリックします。
- ステップ 5** 予定表連動を有効にするには、[有効にする (Enabled)] チェックボックスをオンにします。予定表連動を無効にするには、[有効にする (Enabled)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 6** [表示名 (Display Name)] フィールドに、内容の識別に役立つ名前を入力します。
- ステップ 7** [サーバ (Server)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバの IP アドレスまたはホスト名 URL を入力します。
- ステップ 8** [内線番号ダイヤル文字列を転送する (Transfer Extension Dial String)] フィールドに、電話機のユーザを Cisco Unified MeetingPlace Express サーバのガイダンスに転送するときに、Connection がダイヤルする必要のある数字を入力します。
- ステップ 9** [セキュリティ転送 (Security Transport)] フィールドで、次の適切な設定をクリックします。
  - [なし (None)] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバとの接続にセキュリティを使用しません。
  - [SSL] : Connection は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバとの接続に SSL を使用します。
- ステップ 10** [SSL] を選択した場合、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバ証明書を確認するようするには、[サーバ証明書を確認にする (Validate Server Certificate)] チェックボックスをオンにします。



#### 注意

サーバ証明書の件名行または [subjectAltName:dnsname] フィールドの CN 値が、[サーバ (Server)] フィールドの設定と一致する必要があります。一致しない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

サーバ証明書に署名した CA のルート証明書またはルート証明書チェーン内のすべての証明書が、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で Connection-trust 証明書としてインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、サーバ証明書の確認が失敗します。

**ステップ 11** [エイリアス (Alias)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバへのログインで使用する API ユーザの Windows ドメイン エイリアスを入力します。

この設定は、P.35-32 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定](#)」で設定した API ユーザの [User ID] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 12** [パスワード (Password)] フィールドに、Connection が Cisco Unified MeetingPlace Express サーバへのログインで使用する API ユーザのパスワードを入力します。

この設定は、P.35-32 の「[予定表連動のための Cisco Unified MeetingPlace Express の設定](#)」で設定した API ユーザの [User Password] 設定と一致している必要があります。

**ステップ 13** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。

- [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議の予定を聞くことができるようになります。
- [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] : このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。
- [プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service)] : 複数の外部サービスで [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議がこの Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを介して設定されるようになります。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議が別のサーバを介して設定されるようになります。

**ステップ 14** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 15** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

## Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためのユーザ設定の変更

予定表連動の作成後、ユーザ設定を変更できます。次の手順を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace Express との予定表連動のためのユーザ設定を変更する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[(ユーザ (Users))] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。

**ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。

**ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページの [表示名 (Display Name)] カラムで、Cisco Unified MeetingPlace Express サービスの表示名をクリックします。

**ステップ 5** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [ログイン タイプ (Login Type)] フィールドで、次の適切なオプションをクリックします。

- **[接続エイリアスを使用 (Use Connection Alias)]**: このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace Express プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと同一である場合に便利です。Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。
- **[サーバのゲスト アカウントを使用 (Use Server Guest Account)]**: Connection は、Connection ユーザ エイリアスおよび [User ID] 設定を使用せずに、ユーザをゲストとしてログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議に関する情報のみをユーザに提供します。
- **[次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)]**: Cisco Unified MeetingPlace Express のプロファイル エイリアスを入力します (Cisco Unified MeetingPlace Express プロファイル エイリアスが Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です)。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。Cisco Unified MeetingPlace Express は、パブリック会議とプライベート会議に関する情報をユーザに提供します。

**ステップ 6** (ステップ 5 で [次のユーザ ID を使用: (Use User ID Provided Below)] オプションを選択した場合のみ) [ユーザ ID (User ID)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express の [User ID] 設定を入力します。

**ステップ 7** (有効な場合のみ) [ユーザ プロファイル番号 (User Profile Number)] フィールドに、Cisco Unified MeetingPlace Express の [User ID] 設定を入力します。Connection は、このフィールドの設定を使用してユーザをログインさせます。

**ステップ 8** [サービス機能 (Service Capabilities)] で、次の適切なチェックボックスをオンにします。

- **[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)]**: このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で会議の予定を聞くことができますようになります。



**(注)** ユーザは、[予定表および個人連絡先へのユーザ アクセス (User Access to Calendar and Personal Contacts)] チェックボックスまたは [予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] チェックボックスがオンになっている外部サービスを 1 つだけ保持できます。

- **[MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)]**: このチェックボックスをオンにすると、ユーザが会議のスケジュール設定および会議への参加を行えるようになります。
- **[プライマリ会議サービス (Primary Meeting Service)]**: 複数の外部サービスで [MeetingPlace スケジュール設定および参加設定 (MeetingPlace Scheduling and Joining)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議がこの Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを介して設定されるようになります。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議が別のサーバを介して設定されるようになります。

**ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 10** ユーザの予定表設定を確認するには、[テスト (Test)] をクリックします。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。

テストのいずれかの部分が失敗した場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express、Cisco Unity Connection、およびユーザの設定を確認します。

